

共立 **パックテスト**® 使用法

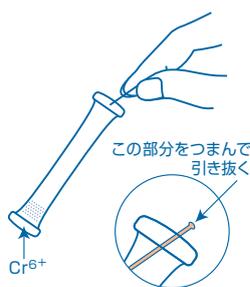
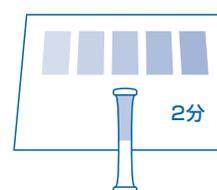
スマートパックテスト

iPhone用アプリ
Japan use only
App Storeから
ダウンロード**6価クロム**

型式 WAK-Cr6+

ジフェニルカルバジド比色法による
Diphenylcarbazide Visual Colorimetric Method測定範囲 Cr⁶⁺ 0.05~2 mg/L(ppm)

測り方

① チューブ先端のライン
を引き抜きます。② 穴を上にして、指で
チューブの下半分を
強くつまみ、中の空気
を押し出します。③ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ
指をゆるめ、半分くらい水を吸い込む
まで待ちます。液がもれないように
かかると5~6回振り混ぜます。④ 2分後にチューブを標準色
の上のせて比色します。デジタルパックテスト、
デジタルパックテスト・マルチSPでも
測定可能です。

測定値の読み方

指定時間後にチューブ内の液の色を標準色と比べます。一番近い標準色の値が測定値です。
チューブ内の液の色が標準色の間の場合は中間値を読み取ってください。

パックテスト使用前、使用後の取扱い注意

チューブの内容物は**強酸性**です。

応急措置

内容物が目に入ってしまったら → すぐに15分以上、水で洗い流してください。
痛みや異常がなくても直後に必ず眼科医の診断を受けてください。

内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。

内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。

内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。
試薬の有害性は外箱の「GHSに基づく表示」、SDSをご参照ください。

保管

ラミネート包装を開封した後は、保存袋に入れ、なるべく早くご使用ください。特に夏場や梅雨時には保存状態により
数日で試薬が劣化することもあります。

廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。
それ以外の場合は、チューブはそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨しています。株式会社 **共立理化学研究所**
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.神奈川県横浜市緑区白山1-18-2 ジャーマンインダストリーパーク
TEL: 045-482-6937

バックテスト 6価クロム

特徴

この製品は、JIS K 0102-3 24.3.1 ジフェニルカルバジド吸光光度分析法の発色原理を用いており、工場排水（一律排水基準：0.2mg/L）や各種溶出試験の検液をはじめ、いろいろな検水中の6価クロムを簡単な操作で測定できます。

細かい測定値が知りたい場合は、デジタルバックテスト（型式 DPM2-Cr6+）、デジタルバックテスト・マルチSP（型式 DPM-MTSP）をご利用ください。

なお、バックテストとは測定範囲、反応時間、共存物質の影響が若干異なりますのでお問い合わせください。

注意

1. 発色時のpHは、2以下です。pHが9以上の検水は希硫酸等でpH7以下にしてから測定してください。特に、生コンクリート業の排水などpHが高い場合にはご注意ください。
2. 200mg/Lのクロム標準液では、標準色の「2」より強く発色しますが、それ以上では退色し、1000mg/Lでは橙色になります。高濃度が予想される場合には、あらかじめ希釈してから測定してください。
3. 検水の温度は15～30℃で測定してください。水温が低いと発色に時間がかかります。
4. 1回で検水をチューブの半分近くまで吸い込めなかった時には、穴を上にして空気を押し出し、もう一度やりなおしてください。
5. 比色する時に、多少試薬が溶解せずに残っていても測定には影響ありません。
6. 比色は昼光で行なってください。直射日光や一部の蛍光灯、水銀灯、LEDでは比色が困難になることがあります。
7. 発色後にラインをチューブ先端の穴に戻すと、チューブ内の液がもれなくなります。

共存物質の影響

標準色は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。下記は、標準液に単一の物質を添加した場合の発色への影響データです。

1000mg/L 以下は影響しない	...	Al ³⁺ 、B ³⁺ （ほう酸）、Ba ²⁺ 、Ca ²⁺ 、Cd ²⁺ 、Cl ⁻ 、CN ⁻ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Mn ²⁺ 、Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、NO ₃ ⁻ 、Pb ²⁺ 、PO ₄ ³⁻ 、Sn ²⁺ 、SO ₄ ²⁻ 、Zn ²⁺ 、フェノール	
500mg/L	//	...	Co ²⁺ 、Ni ²⁺
50mg/L	//	...	NO ₂ ⁻
30mg/L	//	...	Mo ⁶⁺ （モリブデン酸）
10mg/L	//	...	Cu ²⁺
5mg/L	//	...	V ⁵⁺ （バナジン酸）、残留塩素
3mg/L	//	...	Fe ³⁺

海水は影響しません。

また、還元性物質（重亜硫酸ナトリウム、As³⁺、Fe²⁺等）が検水中に共存すると、6価クロムから3価クロムへの還元反応（Cr⁶⁺→Cr³⁺）が起こるため、正確な測定値が得られないことがあります。このような場合には別売の全クロム測定用前処理剤（型式 Cr-RA）を用いて前処理を行なって全クロム（Cr³⁺+Cr⁶⁺）として測定するか、バックテスト 全クロム（型式 WAK-Cr-T）で測定してください。

RoHS指令での6価クロム測定

RoHS指令の対象となるネジ等からの溶出液に含まれている6価クロムの測定にも応用できます。金属部品からの6価クロムの溶出方法については、IEC62321、JIS H8625（熱水抽出）、EPA3060A（アルカリ抽出）などをご参照ください。